



石清水八幡宮頓宮に設置された竹あかりのライトアップ

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



タイルアートを楽しむ参加者



多くの人に見送られて枚方を出発する観光船(淀川河川公園枚方地区)

竹の魅力 身近に感じて

竹を身近に感じてもらうと「やわた里山たけまつり」が10月12、13日、石清水八幡宮頓宮・さぎなみ公園で開催されました。

同イベントは、大阪・関西万博開催の半年前に合わせて、発明王エジソンが八幡の竹を使って白熱電球の実用化に成功したことに因み、竹をテーマに楽しめる催しで、同まつり実行委員会が企画しました。

初日の12日には、石清水八幡宮頓宮で、竹あかりの献灯式を挙げる。会場内には竹の間伐材に市民らが模様をあしらったり、市内園児の絵が飾られたりした竹あかりがずらりと並び、来場者は工夫を凝らした作品をじっくりと眺め

ていました。

13日の日中には、竹のブランコなどの遊び場やマルシェ、竹あかり作り、タイルアートのほか土壁塗り、鉋削りなど、建材を使った伝統的な手仕事の魅力に触れるワークショップなどがあり、多くの人で賑わいました。

淀川クルーズも

このほか、淀川沿川の賑わいづくりに、これまでの大阪から枚方までの航路に加え、62年ぶりに枚方から八幡を経て京都市伏見区まで観光船でつなぐ淀川舟運活性化協議会主催のクルーズイベント「淀川クルーズFESTIVAL」も開催されました。

伝統の手仕事ワークショップ 石清水八幡宮頓宮ライトアップ

大阪・関西万博まで半年

万博会場に設置

間伐材ベンチ製作に協力

男山東
中学校

校内で剪定した枝で作ったベンチを大阪・関西万博へ届けようという取り組みが10月4日、男山東中学校で行われ

「貢献できてうれしい」

ました。この取り組みは、同万博に寄附するため、間伐材等を使用したベンチ2000基の製作に取り組んでいる精華町の物流総合商社「エースジャパン株式会社」が企画。生徒会が中心となり、協力しようと同校で実現したものです。庁務員が校内で剪定した間伐材や材木等を、生徒が集めて、粉碎機に入ると、木は細かなチップに早変わり。根気よく作業を続けると、ベン

校内で伐採された枝を集める生徒



チ約10基分に相当する約300kgのチップが完成しました。また、生徒は同社が持参した間伐材で製作したベンチの座り心地を確認するなど、万博会場での活用を心待ちにして

いました。大舟向日葵さん(13)は「万博という大きなイベントに、少しでも貢献できてうれしい。万博を見に行きたい」と話していました。

同万博で設置される間伐材で製作したベンチに座る生徒



今月のこの人 近畿地方整備局研究発表会奨励賞を受賞



住民と行政との橋渡し役として、川に関する活動を行う「淀川管内河川レンジャー」。市教育委員会と連携した小学校での防災教育に関する論文が、令和6年度近畿地方整備局研究発表会アカウンタピリティ・行政サービス部門で奨励賞を受賞。市内在住。

中村 恵子 さん

「地域の人や教育委員会の協力で子どもに防災教育ができてよかった。皆さんに感謝を伝えたい」と受賞の感想を話す中村恵子さん。中村さんは、八幡で生まれ育ち、幼少期の水害による辛い経験を踏まえ、令和3年より淀川管内河川レンジャーとして活動を開始しました。

水害の教訓次代へつなぐ

八幡市は昔から水害に悩まされてきましたが、それを知らない子どもたちが多いため、教育委員会と連携し、市内小学校4校の4年生を対象に防災教育を実施。授業では、災害時の個人の防災行動を時系列にまとめるマイ・タイムラインの作成や、八幡排水機場、橋本樋門の役割を動画やアニ

メーションを駆使して説明。また、子どもたちの興味関心を促す工夫として、通学路の水害の写真のほか、対話やクイズ形式を取り入れた授業が好評で、地域住民対象の八幡排水機場見学会の実施にも発展しました。今後については「近年は気象条件が複雑化している。市民に災害が身近に起こりうると捉えてもらうため、持続的な取り組みとしたい」と話しました。